

① 永末春美 著

『ホテルの仕事で学んだ 感性を成果につなげる法則』

(カナリア書房)

本書は30歳で神戸北野ホテルの支配人になり、今までにない新しいホテルづくりを女性ならではの感性で切り開いた著者のサクセスストーリーです。人間の持つ7つの感性「視覚」「聴覚」「味覚」「臭覚」「触覚」「第六感」「第七感」を女性ならではのものとは何か細かく分析しています。そしてその感性をどうしたら仕事にいかせるのか、経営の業績アップにつなげられるのかが書かれています。働く女性のすばらしさを痛感する一冊です。

689.8||Nag (N.K.)

③ 本間正人 著

『英語が上達するほめ言葉・フレーズ265』

(PHP研究所)

本書では、「人間関係を構築するコミュニケーション」という視点から、特にビジネスで活用の場合が多く、人間関係にプラスに働く「ほめ言葉」について書かれています。

相手をほめるときのポイントから、初対面の時、商談の時、出張のときなど、状況に合わせたほめ言葉の表現が掲載されています。また「知っておきたい豆知識」として間違いやすい文例が随所に散りばめられていますので、併せて学習するとより効果的です。

837.8||Hom (S.S.)



② 白井利明・高橋一郎 著

『よくわかる卒論の書き方』

(ミネルヴァ書房)

本書はこの手の資料としては、サイズ的に一際大きいのが特徴の一つです。卒論執筆に必要なスキルを見開きで簡潔に紹介しています。卒論を書く際に誰もが案ずる素朴な疑問を、学生の立場になってアドバイスしてくれています。卒論を学生生活の大切な一部として捉えている著者のポリシーが、随所に垣間見えます。例えば「就職活動と両立させるのはなぜか」は、その最たる部分です。更に「文献の集め方」の重要性にスポットを当てている点にも好感が持てます。

卒業論文か卒業研究が必修の学部生には是非読んで頂きたい、親心溢れるイチオシの一冊です。

816.5||Shi (T.F.)

④ 日高敏隆 著

『ぼくの生物学講義：人間を知る手がかり』

(昭和堂)

本書は、昆虫学者として有名な著者が客員教授をしていた京都精華大学で半年間行った講義をまとめたものです。難しいことを分かり易く、また普段見過ごしてしまうようなことを取り上げてハッと気付かせてくれる、そのような楽しい講義録です。

副題に書かれているように、遺伝子とか社会とか生物の話をしながら動物としての人間に様々な角度から迫っていきます。人間特有の言語については、チョムスキーやソシュールの理論についても触れていて興味をそそる内容になっています。

460||Hid (F.O.)